

県内学校ミニ・ニュース (一宮町立一宮中学校)

本校は、昭和22年に開校してから今年で75年目の歴史のある学校です。昨年度は東京オリンピックのサーフィン競技が一宮町で開催され、卒業生の大原選手が出場したこともあり大いに盛り上がりました。本校は「波にのれ、波を越えろ！ 先輩を越えろ そして今の自分を越えろ！」をスローガンとして掲げ、学力の向上、心と体の充実、信頼される学校づくりを柱に教育を進めております。部活動においては柔道部が全国大会に出場する等、好成績を残すことができました。

また、今年度の研究主題は「夢をもち、創造し、自らの力で切り拓き、お互いを認め合う生徒の育成」で、県等から「福祉」「造形」「心のバリアフリー」教育で研究指定を受けています。

福祉教育 (WELFARE)



手作りの心のこもったプレゼント

毎年、福祉委員会の生徒を中心に町在住の高齢者の方のお宅を訪問する活動を行っています。今年は作成した手紙や記念品を直接手渡しました。高齢者の方からは多くの感謝の手紙や電話をいただきました。インクルーシブ教育の理解を目的として、長生特別支援学校から講師の先生を招聘し集会を行いました。

造形教育 (ART)

東京オリンピック・サーフィン競技会場の釣ヶ崎海岸に児童生徒の「オリンピックの思い出」(心のレガシー)として、一宮町内小・中学校、県立長生特別支援学校の児童生徒を対象にメモリアルアート事業を計画。「緑と海と太陽のまち」をテーマとした見事な壁画を作製しました。



釣ヶ崎海岸施設壁面に生徒作品掲示

心のバリアフリー教育 (SPORT)



車いすバスケットを
実際にプレー

多様性や障害への理解を深めるために、あすチャレ！事業として、元パラリンピアンじんぼやすひろの神保康広氏を講師に招聘し講話を聞いた後、車いすバスケットを実体験しました。普段の保健体育科の授業でもパラリンピックの競技種目「ゴールボール」「ボッチャ」を取り入れています。



元パラリンピック
選手による講話

今後も、保護者・地域・関係諸機関と連携しながら、「輝く知性と豊かな心と健やかな体を育み、人間性あふれる生徒の育成」を目指し、生徒主体の活動に取り組んでいきたいと思っております。